

カトリック 仙台教区報

2007年5月6日 No.175

発行

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

共に、復活された主をたたえよう

復活徹夜祭 平賀司教説教

今晚の復活徹夜祭の典礼は「光の祭儀」で始まりました。光と闇の闇が深ければ深いほど、光はそれを貫いて一層の明るさと暖かさ、喜び、安心をもたらします。

父である神から遣わされ、光として世に来られた御子を世は受け入れませんでした。世は、その御子を拒み、十字架にかけて殺してしまいました。世は、以前にもまして深い暗黒に閉じ込められてしまったようです。一日が過ぎ二日が過ぎ、そして三日目。光はその暗黒を突き破り、心の闇を照らす輝かしい復活の光として現れました。光の祭儀での火やろうそくの祝福は、キリストの復活と新しい命を象徴するものです。わたしたちは皆、ろうそくに火を受け、復活賛歌が歌われる間、それを手にしていました。一人ひとりキリストの光を受けました。光そのものである復活のキリストと結ばれたということの象徴です。光の祭儀に続き、第二部は「こ」とばの典礼」です。そこでは、神

がはじめからご自分の民のために行われた偉大な業が告げられました。極めてよいものとしてこ



聖香油ミサに集まった仙台教区司祭団

の天地万物を造り、また、ご自分にかたどって人間を創造された偉大な業です。そして、民を絶対に見捨てず悪から救い出すとの約束を与え、預言者を通してまた

歴史の出来事のうちに、実際に力強く導かれる様子も聴きました。こうしてわたしたちは、神の言葉と約束に信頼して歩む信仰の正しさを確信することができます。

その信仰は、洗礼と堅信とで、公の、目に見えるしるしによって表明されます。今日の典礼の第三部です。洗礼とは何でしょう。か。神の子どもとされる霊を受け、新しい人となることです。一言で言えば、キリストに結ばれたものとなることです。世の闇に受け入れられず十字架につけられて死んだキリストに結ばれて、キリストと共に罪や闇に対しては死んだ者、縁のないものとなること、そして、輝かしい光として復活されたキリストと結ばれ、光の子として生きる者となることです。わたしたちのような弱い人間に、そのようなことができるのか、できます!! 神の言葉と約束に信頼する信仰がそれを保証します。わたしが自分の力だけでできるものではありません。キリストに結ばれたものとして、キリストの力をいただくからできるのです。

次に典礼は、共に主の食卓を囲む第四節に移ります。

最後の晩餐のとき、主は、パンについては「取って食べなさい。これはあなたがたのために渡されるわたしのからだである」とし、ぶどう酒の杯をとっては、「受けて飲みなさい。これは、罪がゆるされるように流されるわたしの血、契約の血である」と定めてくださいました。そして復活の主・キリストは決定的に、こう約束してくださいました。「わたしは世の終わりで、いつもあなたがたと共にいる」と。こうしてわたしたちはキリストと結ばれ、キリストと結ばれたわたしたちは皆で、キリストのうちの一つに集められたもの、一つの間となりま。これから洗礼と堅信が行われ、キリストと結ばれる新しい仲間が誕生します。すでに洗礼を受けている人は、あらためてご自分の洗礼のすばらしい意味を味わいながら、新しい仲間とともに、キリストの体という一つの体に集められたものであることを喜び合いまししょう。そして一緒に復活の主キリストをたたえましょう。

ペトロ三浦平三神父 帰天 司祭生活45年・多彩な司祭生活を送る



仙台教区司祭 ペトロ三浦平三神父は、2007年3月22日午前9時45分、肝細胞がんのため光が丘スベルマン病院ホスピスにて帰天。享年81。

三浦師は、1962年、元寺小路教会にて司祭に叙階された。教区司祭として司牧に従事したほか、カトリック新聞編集長、司教総代理、教誨師、特別養護老人ホーム暁星園園長、カトリック児童福祉会理事長などを歴任。また、短歌の歌人として「新アララギ」誌に所属、カトリック新聞の歌壇選者を務めるなど、多彩な才能を発揮しておられた。

3月26日18時から通夜、27日11時から葬儀・告別式が行われた。

平賀司教は、喪主挨拶の中で、「師は、ある時母親に『自分は司祭になって本当によかったのだらうつか』と尋ねた。母は『それは死ぬ時になって分かるでしょう』と答えたという。最期の時が近づいたとき『私は、司祭になってよかった。とても幸せな人生だった』と言っていました」と、エピソードを交えて師を偲ばれた。

三浦平三神父略歴

1925年4月6日宮城県仙台市に生まれる
51年4月24日仙台元寺小路教会にて受洗

62年3月21日仙台元寺小路教会にて司祭叙階
62年4月、64年3月米川教会助任司祭
65年4月、67年1月千厩教会主任司祭、清心幼稚園園長
67年2月、70年3月仙台教区事務所

70年4月、73年6月カトリック中央協議会事務局次長
74年1月、80年12月カトリック新聞社編集長
81年1月、84年3月仙台教区司教総代理

81年6月、87年5月 社会福祉法人カトリック児童福祉会理事及び評議委員
84年4月、87年3月暁星園園長
87年4月、00年3月 気仙沼教会主任・同幼稚園園長
96年4月、00年3月田茂木(巡回)教会兼任

99年6月、社会福祉法人カトリック児童福祉会理事長
07年3月22日スベルマン病院ホスピスにて帰天(享年81)

ペトロ岐部と187殉教者の列福に向けて

司教 マルチノ 平賀 徹夫

「復活祭のころに」と、もう1ヶ月ほど前に全国紙の記事で報道されましたが、パチカンから公式の発表はまだありません(4月12日現在)。まだかまだかと、待ち遠しいことです。ペトロ岐部と187殉教者の列福についてです。

日本の教会は、今年2月4日から2月11日までを「殉教者を想い、ともに祈る週間」として過ごしました。カトリック司教協議会・殉教者列福調査特別委員会編の冊子(手引き)も発行されそれを使いながら、殉教の出来事を学び、殉教者の信仰・心情そして生き方を味わい、それに照らし合わせて私たち自身の信仰を振り返りました。いろいろな小教区で、また、小グループからも、「あの冊子を使って祈りの集まりを続けましたよ」との声が聞こえてきたのはうれしいことでした。でもこれはまだ完了形で語ることでなく、あの冊子に『この手引きは、「殉教者を想い、ともに祈る週間」に限らず、共同体の黙想会や養成の場においてもご利用下さい』とあったように、何度も読み返した利用できたら良いと思います。

ところで、列福式には仙台教区から巡礼団を組んで参列できたら良いかなと考えております。司教団では列福式の式場として長崎を希望しております。期日が未定ですから参加希望について尋ねられても返事が難しいのは当然ですが、本当に大雑把なところで予備調査的に参加希望者数を各小教区に問い合わせてもらいましたら、今のところ150名ほどの数が出ております。

巡礼団については列福式の公式発表があった後に正式に呼びかけることになりましょう。参加される方も、参加しない・できないという方も、この機会に、『殉教者を想い、ともに祈る週間』の冊子を用いるなどして、殉教者の信仰に照らしながら、個人で、家庭で、また社会の中であって、信仰を持って生きるとはどういうことなのかを、あらためてより深められたら良いと思います。



塩と光

盛期ギリシャ教父の一人、エルサレムのキュリロスは、四世紀の中頃エルサレムの聖墳墓教会で教理講話を行いました。その時の『洗礼志願者のための秘儀講話』の記録が残っています。受洗後の週に、改めて洗礼式についての丁寧な講話がありました。古代教会では、洗礼を受ける前だけでなく受けてからも、新信者は、教会に通い継続養成を受けていたのです。今年の復活徹夜祭において、また大勢の受洗者が誕生しましたが、今後引き続き信者としての生き方についての実践的継続養成が必要です。洗礼の恵みは、生涯かけて生きてゆく賜物です。しかも、共同体の中で生きてゆく恵みなので、まさに共同体が、継続して信者を育てていく責任があります。そのための具体的な信仰教育プログラムを、充実させることが急務です。各共同体の現状は、この継続養成が不十分だったために、久しくミサに参加しなくなった信者が少なくないというのが実状です。新しい信者を増やすだけでなく、すでに信者になった人たちを、共に成長できるように支え合い養成し合っべきです。

(博)

仙台キリシタン殉教祭

2月25日(日)、仙台市内を流れる広瀬川大橋の近く、西公園内に建てられている「キリシタン殉教碑」前の広場で、「仙台キリシタン殉教祭」が午後1時から行われた。参加者は、仙台市内に住む信徒を中心に、東京から参加した人も含め約150人であった。

毎年、仙台市内の各小教区が順に、この殉教祭の担当教会となり準備してくるのであるが、今年は東仙台教会が担当し、氏家和仁師司式で進められた。

塩釜教会委員長・佐々木由美氏

典礼の靈性を深める

司教神学顧問 佐々木 博

共同体の靈性を育てる

典礼は、個人的行為ではなく、共同体の行為であり(『典礼憲章』26項参照)、また共同体を育てます。教会は、もともと神によつて選ばれ呼び集められた共同体であります。しかも、祭司的共同体であるからこそ、典礼を行うことができるのです。

「あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です」(1ペトロ2:9)。ですから、典礼行為の主体である共同体が

の関会挨拶に続き、参加者全員で殉教者をたたえて聖歌を歌った後、「仙台キリシタン殉教録」が朗読された。

ポルトガル人宣教師ディエゴ・カルワリオ神父が8人の信徒と、凍てつく広瀬川で互いに励まし合いながら殉教する様子を伝える殉教録の朗読に、参加者は殉教の現場である広瀬川を見つめながら、およそ400年前の信徒たちの身に起きた出来事を、現代に生きる私たちが生きるとはどついついことなのか、思いを深めつつ耳を傾けた。

広瀬川に向かい、黙祷を捧げた

育てられることは、なくてはならない典礼の準備であります。

どのように、わたしたちの共同体を育てて行くのでしょうか。パウロは、適切な助言をしてくれます。「ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教師、ある人を牧者、教師とされたのです。こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げます」(エフェソ4:11-12)。共同体に奉仕するために、役割分担をするのです。ですから、共同体の中に能力主義とか力の論理を持ち込んではいけません。

後、マタイ福音書5章山上の説教の「真福八端」が朗読された。続いて氏家師による説教、殉教碑への撒水、献香に続き、仙塩地区各小教区代表者による共同祈願が行われ、代表者による献花ののち参加者全員が殉教碑の前に進み出て一礼し、閉会の挨拶の後、散会した。

例年、この日は悪天候に見舞われるという言い伝えがあるが、珍しく雪も雨もなく、おだやかな天候で、「毎年参加していますが、こんなに恵まれた天気の日は初めてです」と参加者が驚くほどであった。

関係者の話によると、殉教碑が

せん。お互いが奉仕し合うというのが、共同体を育てるための根本原則であります。

さらに「愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭(かしら)であるキリストに向かつて成長して行きます。キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによつてしっかりと組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に應じて働いて体を成長させ、自ら愛によつて造りあげられてゆくのです」(エフェソ4:15-16)。



設置されているこの場所は、地下鉄東西線工事の資材置き場になることと、来年からの殉教祭の場が危ぶまれているとのことであった。

仙台教区司祭の役割から

責任役員会とは・・・

責任役員会とは、日本の宗教法人法の定めるところにより、宗教法人(カトリック仙台司教区)の社会的な事務を担当し決定する機関となっています。

責任役員会が決定する主要な事務とは、予算編成・決算の承認・財産の設定・変更、不動産の取得・処分、境内建物の新築・改築・増築・模様替え・用途の変更、境

内地の模様替え、事業の管理運営合併・解散の決定などが挙げられます。

仙台教区の責任役員は、宗教法人の代表役員(＝教区司教)により、司祭以上の聖職者の中から任命されます。現在、カトリック仙台教区責任役員会は代表役員、平賀 徹夫司教、役員として会津 隆司師、小野寺 洋一師、佐々木 博師、佐藤 守也師、和野 信彦師の定数7名(欠員1名)で構成されています。

代表役員は責任役員を招集し、責任役員会を開催します。そこで先に挙げられた宗教法人の宗教的な事項を除く主要な事項について合議します。代表役員は責任役員会にて決定した事柄について、司祭評議会や財政問題評議会などの委員会による答申との調和を取りながら事務を執行していく責任を担います。

日本の教会は各教区・修道会・宣教会として宗教法人法人格を持っています。ですから、教区に關わる小教区の預貯金・建物・土地などの処分や増改築、著しい模様替えなどについては教区の基本財産に關わるため、責任役員会の議決を経なければなりません。

(和野 信彦)

復活祭・受洗者の声

感動を胸に、あらたな歩みを...

今年の復活祭も、各地で多くの方々が洗礼の恵みにあずかった。

受洗の喜びをアンケートに答えていただく形で寄せていただいた。

【アンケート内容】 氏名・男女・年齢 霊名・洗礼名
所属教会 洗礼の動機 洗礼を受けるにあたって
影響を受けた人 洗礼を受けて変わったこと これからの決意
【写真は、カテドラルでの洗礼式】

塩木 輝道(しおきてるみち)男・50歳代 アンセルモ 元寺 小路教会
うになれたようにと意識するよ

大学時代から無神論者だった。10数年前から信仰をもつことの必要性を感じていた。9・11テロがあつてから、さまざまな宗教についての本を数多く読み、客観性を保てるように、宗教社会学的見地から書かれた本を読んで調べていくうちに、キリスト教を選択。プロテスタントには興味がなく、正教会とカトリックで迷ったが、最終的にカトリックを選んだ。幼稚園がカトリックであつたことも少なからず影響があつたのかも知れない。これは聖霊の導きかもしれないと考えている。

遠藤周作・ヨハネパウロ2世 今まですぐにイライラする ようなことを出来るだけ寛容

身内はもちろん、他者に対しても愛情を持って寛容であることを心がけたい。

高橋三八子(たかはし みやこ)女・60歳代 マリア ジェズ イーナ 東仙台教会
仙台百合学園で教育を受けたので、いつか洗礼を受けたいと思っていた。

修道女 長い間の念願だったので、一皮剥けた感じ、澄心静慮之心境。

無の気持ちになつて、一期一会を大事にし、常に十字架を胸に、スマイルを保つ。清く・正しく・美しくを念頭に、神と一緒にイエス様の教えに従い、微力ながら役立つよう邁進する所存です。



妻・長女次女が信者で、いつか洗礼を受けようと思つてたが、古希を期に神父様の指導を受けた。

司祭・家族
長い間教会に出入りしていたので、多くの方からお祝いを受けたのが一番嬉しかった。家族とも今まで以上に心を通わせることが出来ると思ひ、幸せです。

「あらゆる立法よりも愛が勝る」、人にされていやなことを他人にもしてはいけない」の精神で、人と接していきたい。

根元 隆男(ねもと たかお)男・50歳代 ヨゼフ 松木町教会
毎週妻を教会に送迎しているうち、教会行事に参加するようになった。

狩原 尚義(かりはら たかよし)男・70歳代 トマス アクイ

フィリピン人の妻を持つ日本人の夫達との交流
教会の人々と親しくなつたし、やさしくなつた。前よりも教会に来やすくなつた。

すべて神様に任せて生きて生きたいと思つた。

薄井 チエ子(うすい ちえこ)女・40歳代 小さき花の テレジア

白河教会
若い頃人間の無力さを感じ教会に勉強に行ったが、自分の力では力不足と想つた。3年ぐらい前にどん底まで行つたら、神様が待っていてくださったように感じた。神様から離れてはいけないと思つた。

マザーテレサ・司祭・宮崎力
リタス会のシスター
気持ちがあつた。張り詰めていた気持ちが和らぎ、急がずゆっくりでもいいと思ふようになった。

神様は、いろいろな形で私を守つてくださり、洗礼を授けてくださったと思う。神様の声に耳を傾け、神様の手足となつて苦しんでいる人々のために出来る事があれば手伝いたい。

荘司こずえ(しょうじ ずえ)女・40歳代 ベルナデッタ
北仙台教会
よく考えれば一つ一つがす

宣教司牧評議会定例会

3月21日(春分の日)、仙台教区宣教司牧評議会定例会がカトリック仙台司教区センターにて開催された。これまでの評議員の任期満了に伴い評議員の顔ぶれが新しくなつた。新評議員は次の通り(は役員)。

【青森県】

里村 智彦(八戸塩町)

砂田 昭子(弘前)

小松 史朗師(青森市担当)

【岩手県】

飯塚 豊(志家)

玉熊 伸子(上堂)

田中 丈夫師(盛岡地区担当)

【宮城県】

岡田 耕二(八木山)

山田 務(豊屋丁)

小野寺 洋一師(泉南地区担当)

【福島県】

金子 力(いわき)

吉田 和則(いわき)

板垣 勤師(会津地区担当)

【修道女連盟】

秋山 恵(CND)

城戸 一江(女子パウロ会)

【司教直任】

G・ホルヘ(ラ・サール会)

【教区本部】

佐藤 守也師(司教総代理)
和野 信彦師(事務局長)
評議会においては、外国籍信徒デスク(仮称)の設置に関し

べてここに至るためのプロセスだったように思います。なかなかそれに気づかなかったのですが、具体的な大きな出来事は比較的最近で、5年前になります。それまで知り合って長かったのに、ある先輩が信仰をもった人であることは知らず、ふとしたことからカトリック教徒であることを知りました。その尊敬する先輩の行動、考え方のベースには神様の教えがあった、これが最初の衝撃であり、大きな転機でした。そしてある方との出会いがさらに私を後押ししてくださったのですが、初めての土地で困っていたところを助けていただいた時、その柔らかさ、包み込むような暖かさに、このような人に私もな



りたいと強く感じたのです。後でその方の職業が司祭であること知り、導かれていることを感じました。この二つの出来事には今でも感謝しています。

上記の二人に加えて、アメリカのホストマザーと北仙台教会主任司祭。今までも何か偉大な力が働いていると感じることが多かったですし、物事に偶然はなく、すべて必然だと思っただけはいいですが、今ではすべて神様のみこころによるものであると信じています。福島県須賀川市に生まれ、アメリカに高校生で渡り、大学は埼玉で通いました。東京で就職し、転勤で関西に6年住み、その後仙台へ移り住みました。生まれてからこれまで何十箇所と転居を繰り返し、新しい場所、新しい人に出会う度に、刺激的な楽しさも

味わう代わりに、根無し草のような落ち着く場所がない孤独感を感じていました。しかし今、住む場所や人ではなく、自分自身の中に神様とともにいることができる安心感、やすらぎを感じ、物心ついてからずっと感じていた孤独感を受け入れることができました。

自分のように孤独を感じている人々のそばに寄り添ってあげたいと思いますし、自分が洗礼を受けるきっかけになった方々のように、「あのような人になりたい」と他人が感じるような生き方をしていきたいと思っています。それには、決して派手なことではなく、日々祈り、自分の与えられた役割を精一杯努めることだと思っています。

て協議が行われ、その準備委員会の人選を仙台教区人権を考える委員会に委託することが了承された。

その他、今年度各県で行われた教区活性化研修会のあり方などについての感想や意見交換が行われ、今後のフィードバックの必要性を確認し役員会にて検討していただくことになった。

教区各委員会からの報告では、青少年委員会、広報委員会から報告がなされた。また、ペト口岐部と187殉教者列福式の巡礼団を企画検討中であることが報告された。

オタワ愛徳修道女会



楠瀬 善子

このたび、神の恵みといつく

しみにより、また皆様のたくさんのお祈りに支えられ、喜びのうちに初誓願を宣立することができました。心より感謝申し上げます。

ツク中島町教会では、高知だけでなく、愛媛、香川、徳島、また広島教区の青年との交流もあり、たくさん仲間と楽しい時を過ごしました。そして

招きにごたえて



ことなのかな。神様は、私に何を望みなのだろう...」と思ったことが、召命について考えるきっかけとなりました。

その日から、養成期間を含め6年の月日が流れました。迷うこと、自分の思いどおりにならないことの連続でしたが、思い切つてこの道を歩み始めることができ、本当によかったと、しみじみ思っています。

網野 孝四郎(あみのこしろう) 男・70歳代 マクシミリアンマリアコルベ 八戸塩町教会

私にとつて信仰は必要なことと以前から考えていたことなので、動機というよりも時の流れでした。

キリスト教系の大学

変わるには歳を取り過ぎました。今のところどうなるかわかりません。

勉強していきたいと思っています。

司教日程

5・6月

- 5・1 三ツノ師司教階60年祝賀
- ニサ(ペトレム)の家
- 人権を考える委員会
- 司教評議会、司祭団役員会
- 12 青年黙想会
- 教区修女連院長会
- 19 宣教司牧評議委員会
- 弘前教会堅信式
- 20 聖書降臨の主日(元寺小路)
- 司祭団月例会、責任役員会
- 28 藤の園落成式
- 29 人権を考える委員会
- 6・4 司祭団役員会
- 5 教区財政問題評議会
- 11 司祭評議会役員会
- 12 宣教司牧評議委員会
- 16 23 臨時司教総会
- 18 司祭団月例会、責任役員会
- 25

東北新生園を訪ねて ハンセン病問題に関するシンポジウム開催に向けて

日本カトリック部落問題委員会から、ハンセン病問題に関するシンポジウムを仙台において開催したいという申し入れがあり、教区としては、人権を考える委員会を通して、開催の準備を進めることになった。その会合と、現地視察のため、カトリック部落問題委員会から太田 勝神父・浜崎 眞実神父・根津 正幸事務局長の3名が3月23・24日来仙された。

部落問題とは「差別」問題にかかわる部門である。国家により意図的に差別されたハンセン病患者。その方々の受けた「差別」を知ることにより、自分たちのなかにある「差別」を認識しようと、宮城県登米市のハンセン病療養所・東北新生園を3人の方々と一緒にお訪ねした。



新生園居住棟（殆どが空き家になっている）

東北新生園には、かつては東北・北海道各地から連れてこられた700人位の方々が自給自足の生活をしていたそうだが、現在は155名の方がおられた。11万坪という広大な土地に今はのんびりとした田園風景が広がって、かつての悲惨さをしのげるものは多くはなかったが、病で視力を失った方のためにか、道々にあるボックスから通りかかると鳴るチャイムの音がここには特別な生活があったことを知らせていた。また復元された小学校をみると、それほどまでの幼い子等さえも連れてこられていたのかと、胸がいたくなった。しかし最も衝撃

的だったのは納骨堂。写真下「での説明であった。「死んで」はじめて本名が分かるんですよ。ほとんどの人が仮の名でしたからね・・・」「骨壺にさえ本名を書けない人もいますしね・・・」と自治会長さんが説明してくれた。偏見の重さがどれほどであったか、思い知らされた。100年にわたる国の施策でどれほどの人の人生が抹殺されたのだろうか。

園におられた信者の方々と別「かもしれない。(入江和子) 共にミサにあずかった。交流会では「長く住んでいるとつらいことばかりでなく、楽しいこともあったよ」と穏やかに話されていたが、かえって悲しみや怒りを心の奥底にせずめて生きてこられなかった思いが伝わってきた。

私どもはあまりにもその方々への思いが少なすぎた。誤った国の施策はあまりにも長すぎた。無関心こそ最大の「差別」かもしれない。(入江和子)

告知板

公開講演会

演題「認知症と高次脳障害について」
講師 東北厚生年金病院長 遠藤 実 先生
日時 2007年5月13日(日)14時~16時
場所 カトリック元寺小路教会 2階会議室
主催 日本カトリック医師会仙台支部
どなたでもお気軽においでください。入場無料
連絡先 仙台支部事務局 TEL 022-265-5788

春の後藤寿庵豊作大祈願祭

後藤寿庵の遺徳を偲び、豊作を祈るこの祭り。皆様のご参加をお待ちいたしております。

日時 2007年5月20日(日)午前10時
場所 岩手県奥州市水沢区福原 寿庵廟前
主催 水沢教会寿庵祭実行委員会

第24回カトリック医療関連学生セミナー

開催予告・・・「病める人との対話」をメインテーマに来年8月に開催します。

このセミナーは、医療関連の学生や医療に携わる者が、いかにして病める人との相互信頼関係を築くことができ、満足のいく医療ができるかということ学び、考えようというものです。

カトリック医療に関連した学生などをご存知の方は、ご紹介ください。

日本カトリック医師会仙台支部長 藤村 重文
連絡先 〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-25
早坂歯科医院内 日本カトリック医師会仙台支部
TEL 022-265-5788

Email:haya2001@eagle.com.ne.jp



活動紹介

楽しいことを発展させて

浪打教会 加藤 圭子

もはや15年は経つでしょうが、料理に特別趣味のあるものが集まって、月一度「料理教室」と称して(12人位)で楽しくやってきました。そのうちに気がついたことは、少し前に婦人会などで力を出していた方々が高齢になり、教会に足を運ぶのさえもできなくなつたということでした。「何も出来なくてごめんね」といわれるたびに「お顔を見るだけでもうれし」と、やりとりしているうち

私の気分転換

会津若松教会 成田 友子

私の気分転換は料理。といつても所詮「馳走といわれるたぐいのものではない。ごくごく普通の家庭料理である。仕事帰り、夕食とお弁当のおかずの食材選びは特に楽しい。四季折々に出る旬の野菜を賛美する。高く買って買えないときは、心で一礼してその場を過ぎ去る習慣がいつの間にか身についていた。冷蔵庫の中を覗き込んでグローバルな

にだんだんと遠のいていました。そのうちに教会の聖体奉仕者の任命を受け、料理は福祉部として月に一度ではあるけれども、一人暮らしの方々にご聖体と共に弁当をお届けしたいと思つようになり、委員会にはかり、教会から年間2万円の援助をいただき、続けて6年目になります。



世界を見渡し「こんにちは。よろしくね」と挨拶する。私は忙しいから、疲れたからといつて料理の下ごしらえに可能な限り手抜きはしない。手抜きをすると正直なほど結果に表れるから。野菜の切り方、盛り付けも情性的にせず、ちよつと工夫を凝らすと見事な芸術作品(自画自賛)が出来上がる。何よりも神の創造のみに参加しているような気分になる。こういう気分をいつまでもたっぷり味わっていたい。

修道院紹介

聖ドミニコ女子修道会

仙台修道院

お届けした時の喜びのお顔を思いながら気を大きくしております。これが月にせめて2回くらいに出来たらいいなあ、と楽しいことをもつと発展させていきたいと夢見ています。

私どもの修道院は広瀬川遊歩道の近く、静かな住宅地域にあります。また、東北大学、県立美術館などの近くにあり、文教地区の中に位置しています。

私も昨年から1年間、聖ドミニコがプレイユの修道院を創立してから80年、また、その流れを汲む五つの修道会が統合してから50周年を迎え、世界のドミニコ女子修道会と心を一つにしてこの記念すべき時を祝っています。

現在私どものコミノテは、18名の姉妹たちが集い、聖ドミニコの精神のもとに朝・夕の祈りを共同で行い、日々神のみ國の



発展のために祈りをささげています。

日本における修道会の設立の念願である子女の教育を行い、毎日、幼・小の子どもたちの元気な声に勇気づけられながら、世界の子どもたちの健全な成長を祈っています。また、高校生と共に、「祈りの集い」「写真」を行い、喜びを分かち合い、近所の方々と共に協力し合いながら、今日も神を賛美し、神のみ栄えのために働いています。

新刊案内

『5つのパンと2ひきの魚 獄中からの祈り』

著者 フランシスコ・グエン・ヴァン・トゥアンノ 訳者 日本カトリック難民移住移動者委員会発行 女子パウロ会/定価 13000円+税

本書は、ベトナム戦争終結後、共産政権によって強いられた13年間にあぶ獄中生活から生まれた著者の心からの祈りの書です。13年間の獄中生活の後、彼は91年に国外追放され、98年ヨハネ・パウロ2世教皇により教皇庁正義と平和評議会議長に任ぜられ、01年枢機卿に親任されました。

教皇ヨハネ・パウロ2世の第12回ワールド・ユースデイ(1997年)のメッセージを引用しながら、未来を託す青年たちに、「自分の獄中生活での信仰体験を、イエスのなされた奇跡、5つのパンと2ひきの魚」に託して明かしておられます。

著者は、何もない牢獄の中で、自分の持っている5つのパンと2ひきの魚を発見し、それを主イエス・キリストに差し出し、信仰をもって使っていたのです。どんな苦しい独房生活でも、「今を生きる」と、その今を主への愛で満たすことが出来ました。これが彼の第1のパンでした。彼の生きた「5つのパンと2ひきの魚」は、青年たちだけでなく、今を生きる私たちに大きな光と励まし、ヒントを与えてくれるものです。

本書は、読む人の心に、過酷な体験の中でも、このように深い信仰を生きられたと、いつ内容が心に迫ってきます。

